

長岡あーかいぶ 第16号



編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

文書資料室 20 周年

～歴史資料を未来へ伝えるために～

長岡市立中央図書館文書資料室は、平成10年(1998)4月に長岡市史編さん室の業務と所蔵資料を引き継いで開室しました。平成30年度で20周年を迎えます。

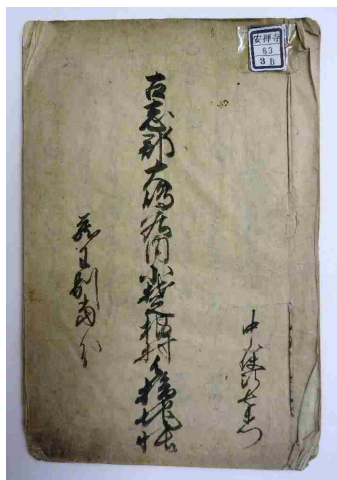
この20年間で、市域の歴史研究は『新潟県史』『長岡市史』などの自治体史編さん事業の成果と課題をうけ、着実に進展しています。各地域で活動する郷土史研究団体は、地元根差した活動を続け、集落史や周年史・社史などの編さんも活発です。また、直江兼統、河井継之助、小林虎三郎、山本五十六をはじめとする人物たちの再評価も進み、自治体史では叙述しきれなかった歴史事実や人物の検証が行われつつあります。

こうした歴史研究の深まりのなかで、当室が果たすべき役割は増えています。所蔵資料の柱である古文書は地域の歴史を、歴史公文書は行政の歴史を知ること

ができる重要な記録です。長岡市は北越戊辰戦争と長岡空襲で多くの文化遺産を失いました。本紙名の由来である「Archives (アーカイブズ)」は、「文書館」「公文書館」などと翻訳され、様々な記録資料を保存・公開する施設を意味します。先人たちが今に伝えた歴史資料を整理・保存し、市民の閲覧に供していくことが当室に求められているのです。

平成30年度は長岡市立図書館開館100年、長岡開府400年の節目です。当室も長岡市史双書の発行、古文書解説講座の開催などの継続する事業を大切に、郷土長岡の歴史を調査・研究するための「Archives」として、市民に親しまれる存在となるよう活動を推進していきます。

(田中洋史)



▲慶長2年(1597)「古志郡大嶋庄内小楚根村御検地帳」 (長岡市指定文化財)

安禅寺文書(寄託)。平成21年NHKドラマ「天地人」の主人公・直江兼統が配下の与板衆に実施させた検地の記録。文書資料室の所蔵資料のなかで最も古い、421年前の古文書です。

長岡市史双書 No.57

『大正記念長岡市立互尊文庫

市立図書館の開館と戦災復興』

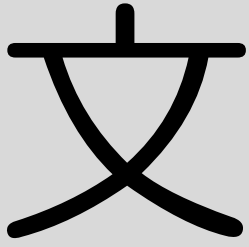
最新刊!

平成30年は長岡市立図書館開館100周年です。これを記念して大正7年(1918)に野本恭八郎(互尊翁)の寄附により開館した大正記念長岡市立互尊文庫に関する歴史資料集を刊行しました。

絵葉書・新聞記事・歴史公文書などで、開館から昭和20年(1945)8月の長岡空襲とその後の復興までの社会文化史を探ります。(林朋子)



頒布価格 1,500 円
B5 版・153 ページ



書資料室 20 年のあゆみ



開室から 20 年。この間、中越大震災をはじめとした大規模災害、平成の市町村合併など様々な出来事がありました。当初、古文書などの歴史資料と長岡市の公文書の収集・整理・保存・公開を目的として開室した当室は、その時々々の社会の状況にあわせて、新たな業務を加えてきました。ここではこれまでの文書資料室のあゆみをご紹介します。
(岡田佐輝子・下玉利紀子・永井桃代)

平成 10 年 (1998)

文書資料室開室 (4 月 1 日)

- ・古文書解説講座初開催
- ・「長岡市史を読む会」初開催 (～平成 14 年)

平成 15 年 (2003)

- ・「長岡市史双書を読む会」初開催

平成 16 年 (2004)

新潟・福島豪雨発生 (7 月 13 日)

中越大震災発生 (10 月 23 日)

- ・災害対応開始 (歴史的資料の救済・震災関連資料の収集)

平成 17 年 (2005)

平成の市町村合併① (4 月 1 日)

- ・「チャレンジ古文書！」初開催 (～平成 23 年)
- ・機関紙「長岡あーかいぶす」創刊
- ・ホームページ開設
- ・歴史資料所在確認調査開始
- ・長岡市資料整理ボランティア発足 (10 月 9 日)
- ・山古志小・中学校文化祭特別展覧会「ふるさと山古志の発見」開催

平成 18 年 (2006)

平成の市町村合併② (1 月 1 日)

- ・『長岡市政 100 年のあゆみ』を読む会」開催
- ・資料保存研究セミナー「歴史資料の現地保存への取り組み—中越地震被災経験をふまえて—」開催

平成 19 年 (2007)

- ・古文書解説講座に入門コースと一般コースを開設
- ・長岡市被災資料保存・整理推進協議会設立 (～平成 22 年)
- ・庁内向け機関紙「庁内 長岡あーかいぶす」創刊

中越沖地震発生 (7 月 16 日)

- ・支所地域の歴史公文書整理開始
- ・「山古志の歴史を語る会」初開催 (～平成 28 年)

平成 20 年 (2008)

- ・開室 10 周年記念歴史講演会「長岡市史の前後」開催
- ・災害アーカイブス展「避難所の記録と記憶」開催

平成 21 年 (2009)

- ・中越大震災 5 周年特別企画展「復興の軌跡」開催
- ・歴史講座「中越大震災～史料保存の現場から」開催
- ・互尊文庫入口展示スペースでの企画展示開始

平成 22 年 (2010)

平成の市町村合併③ (3 月 31 日)

- ・『郷土長岡を創った人びと』を読む会」開催

平成 23 年 (2011)

東日本大震災発生 (3 月 11 日)

- ・長岡市内に開設された避難所資料を収集
- ・歴史資料保存講座初開催

平成 26 年 (2014)

- ・リレー講演会「災害史に学ぶ」開催
- ・中越大震災 10 周年企画展「災害と復興をかたりつぐ」開催
- ・「長岡市災害復興文庫」開設
- ・国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に長岡市災害復興文庫資料の一部を公開開始

平成 27 年 (2015)

- ・長岡市災害復興文庫展初開催
- ・長岡市資料整理ボランティア 10 周年記念活動報告会開催

平成 28 年 (2016)

- ・南相馬市立中央図書館 (福島県) で連携展示初開催
- ・図書館総合展初出席

平成 29 年 (2017)

- ・シンポジウム「あつめる・整理する・つたえる～震災復興と図書館のアーカイブ機能～」開催
- ・特別企画「古文書相談の日」開催

【これまでに編集・発行した刊行物】

『長岡市史双書』No. 38～ (平成 11 年～)、『長岡市政 100 年のあゆみ』 (平成 18 年)、『郷土長岡を創った人びと』 (平成 21 年)、『山古志の文書と民具』 (平成 24 年)、『震災避難所の史料 新潟県中越地震・東日本大震災』 (平成 25 年)、『リレー講演会「災害史に学ぶ」記録誌』・『新潟県中越地震・東日本大震災と災害史研究・史料保存—長岡市災害復興文庫を中心に—』 (平成 28 年)



▲星野嘉保子肖像

星野嘉保子は嘉永元年(1848)西蒲原郡岩室村西船越(新潟市西蒲区西船越)の割元庄屋・小川家の長女として生まれた。6歳の時、長岡町表二之町の医師・星野宗仙(そうせん)の養女となる。宗仙は嘉保子の実父・小川寛三郎の兄にあたり、内外に知られた名医であった。

慶応3年(1867)に宗仙が亡くなると、星野家には借金だけが残り、借金取りから身を隠すような日々が続いた。嘉保子は得意の裁縫で少しの収入を得られるようになったが、翌慶応4年の戊辰戦争で表町の家も焼けてしまう。養母を抱え、借家暮らしを余儀なくされた。

嘉保子は悲観しなかった。生活していくために足袋の製造を習い、衣服の仕立てをはじめた。やがて評判となり、次々と注文がくるようになる。幼少期に実母から裁縫や刺繍など当時の女性の修めるべき家事などを習い、それらがしっかりと身につけていたこと、その上とても上手だったことが幸いした。努力の甲斐あって、表町の家を再建するに至る。

明治8年(1875)縁あって新潟県令・永山盛輝宅に家庭教師としてつとめることになった。精勤ぶりが認められ、翌年に設立された新潟女紅場の雇(やとい)となる。嘉保子は熱心に女子教育にあたり、同僚の教員たちの信頼も得て、生徒総取締に任命された。在勤中に表彰されることも度々あった。

明治12年、新潟女紅場を辞し長岡に戻る。同年、表町校に教員として招かれ、裁縫を教えはじめる。同時に、芸娼妓のための裁縫伝習所が設立されると、そこでも裁縫を教えた。この頃から、嘉保子は女子教育の必要性和女学校設立の必要性を痛感するようになっていった。周囲の賛同・協力を得て、明治22年、ついに坂之上町に私立長岡女学校を開校した。

同年9月28日の『新潟新聞』には、開校式の記事が掲載されている。

「(前略)同校門前にハ旭旗を交叉し、玄関にハ紫の幔幕を張り、式場にハ插花七瓶を列ね、又壇を設けて大鯛其他種々の縦物を陳列し、斯て始式の定刻午前九時に近づくや、教員生徒一同は坂上町の町端まで出で、長倉本県学務課長を出迎ひ(中略)終つて生徒一同裁縫をなして式終り、それより休憩室に於て抹茶を饗応し、後ち酒筵を開き、頗る盛会なりしといふ(読点筆者)」

記事のとおり、開校式では生徒による裁縫の実演が行われた。嘉保子は常から裁縫についての自論を持っていた。「空針(からはり)遣い」すなわち運針を最も重要なものとし、女学生は入学から2、3か月はひたすら白布に空針をつかわされたという。こつこつと地道に運針に取り組むことをとおして、こつこつと地道に働くことの大切さを彼女らに体感させようとしたのである。怠ける女学生は嘉保子に懇々と諭された。

明治30年10月30日夜におきた「渡里町火事」の被害は大きく、『新潟新聞』によれば、一般家屋の焼失戸数は11町内183戸にも及んだ。長岡女学校も焼失を免れなかった。嘉保子は女生徒を引率して冷静に避難したという。被災後はいちはやく大工町の法蔵寺の庫裏を借りて授業を再開した。校舎の新築には経済的な理由などから時間がかかったが、同33年には観光院町に新築落成・開校式の運びとなった。

長岡女学校の教育目標は、第一に良妻賢母を育てることにあった。卒業生の多くは、長岡中学校長・坂牧善辰や北越新報社社長・広井一など各界に名立たる名士の妻となった。創立以来長岡女学校の評判は高く、また嘉保子の人徳もあり、県内外から入学志願者が押し寄せたという。

明治37年12月、嘉保子は57歳でその生涯を閉じた。跡を継いだ養子の星野勝は実業家に転身し、長岡女学校は大正11年(1922)惜しまれながら閉校した。翌年、嘉保子を慕う卒業生らが集まり悠久山に銅像を建てた。彫刻家・武石弘三郎の手によるこの胸像は、戦時中に供出されたため見ることはできない。

(桜井奈穂子)

【主な参考文献】

北越新報社『長岡教育史料』大正6年
北越新報社『北越偉人の片鱗』昭和4年
『ふるさと長岡の人びと』平成10年

お待たせしました!

長岡開府400年を記念して、特に御要望の多かった長岡市史双書No.41『長岡藩政史料集(6)長岡藩の家臣団』、No.44『長岡城之面影—長岡城下年中行事—』、No.45『山本五十六の書簡—長岡市立中央図書館文書資料室所蔵資料を中心に—』の再版が決定しました。

頒布開始のお知らせは長岡市政だより又は文書資料室ホームページを御確認ください。(上原美穂)

《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・越佐新聞（明治30年代・襖の下張り文書）
（近代、54点）
- ・南蒲原郡中之島村西木製紙工場資料（近代、1点）
- ・脇野町同業組合資料（近代、27点）
- ・古志郡福戸村吉野家資料（近世～現代、20点）
- ・古志郡蓮瀉村安達家蔵書（近世～近代、29点）
- ・美の川酒造株式会社資料（近世～現代、149点）
- ・古志郡浦瀬村正得寺資料（近世～現代、44点）
- ・三宅正一関係資料（現代、15点）
- ・古志郡半蔵金村米山家資料（近世～近代、39点）
- ・刈羽郡七日町村原家文書（近世～現代、704点）
- ・水島爾保布蔵書（近世～現代、227点）
- ・長岡藩士内藤家文書（近・現代、71点）
（平成30年2月末現在）

【資料を閲覧するには】

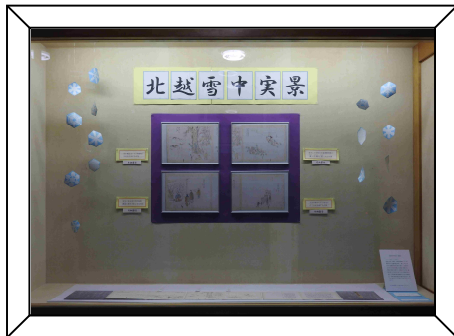
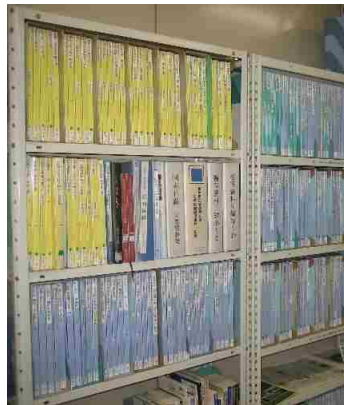
文書資料室では、現在、約250の所蔵資料目録を公開しています。これらの資料は、申請すればどなたでも閲覧することができます。手順を紹介します。

- ①目録書架（写真）から目録を選ぶ。
- ②目録の中から閲覧したい資料を選ぶ。
- ③「閲覧複写申請書」に必要事項（氏名・目録番号など）を記入する。

申請書を受付に提出すると職員が確認し、資料を準備します。資料によっては館外の倉庫などに保管している場合もありますので当日閲覧できないこともあります。

資料は主に市民の皆さんから寄贈または寄託していただいたものです。時代は中世・近世から現代まで幅広く内容も様々ですが、どれも長岡の歴史を物語る、私たち市民の財産です。ご利用をお待ちしています。

（桜井奈穂子）



ご存じですか？ エントランス展示

当室の活動を紹介し、所蔵資料を活用していただくため、互尊文庫正面入口で展示を行っています。

展示替えはホームページでお知らせしています。互尊文庫にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

《編集後記》平成30年（2018）は長岡市立図書館開館100年、長岡開府400年、北越戊辰戦争150年の大きな節目の年にあたります。本紙で振り返ったとおり、文書資料室も開室20年です。「温故知新」の言葉を大切に、初心に帰って業務に取り組んでいきます。（田中洋史）／今年はビッグイベント目白押しの当市ですが、文書資料室は地に足を付けて着実に歩み続けます。皆様の応援を心の支えに…。（林朋子）

●史料保存こぼればなし

歴史公文書整理 栃尾支所

平成29年度から30年度までの予定で、歴史公文書の整理・保存作業の一部を栃尾支所で行っています。これらの資料は、平成16年に発生した7.13水害や中越大震災、平成19年に発生した中越沖地震から10年以上が経過して、保存年限が10年満了を迎えた栃尾地域の災害に関する資料群です。

歴史公文書の整理方法は、①プラスチックファイルから外してホッチキスなどの金具を外す。②必要な箇所は糊で貼り直したり、こより紐で束ね直したりする。③タイトルをつけ直す。①②③の手順で簿冊を綴り直し、長期保存に耐えうる姿に整えます。その後、目録データを作成して、資料を公開できる日に向け準備します。

長岡市の歴史公文書の整理・保存の取り組みは、このような手作業で行われているのです。

栃尾支所の皆さんから、名産のあぶらげや美術館やトチオンガーなどローカル情報を得ることも、職員の楽しみです♪（下玉利紀子・永井桃代）



▲これが…



▲こうなりました！

平成30年3月31日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

スタッフ：田中洋史、桜井奈穂子、岡田佐輝子、

下玉利紀子、林朋子、上原美穂、永井桃代

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20

（長岡市立互尊文庫2階）

TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754

E-mail: monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp